

持続可能な観光先進国となるために

北進ゼミナール

2026年3月「世界遺産・国宝の姫路城の入場料が1日に改定され、姫路市民以外の大人は2500円に値上げとなる一方で市民は1000円に据え置かれた」というニュースを目にした。市民か市民以外かで2.5倍もの価格差があるが、世界的に見るとそれほど珍しい話ではないようである。資料Ⅰは国外の著名観光地における二重価格の事例である。姫路市によると城の長期的な修繕資金の調達を行うと同時に観光客の集中を防ぐ狙いでこのような設定をしたとのことである。なお、特に後者の目的で行う措置をオーバーツーリズム対策と言う。

オーバーツーリズムとは、観光地にあまりに多くの観光客が押し寄せ、地域住民の生活や環境に悪影響を与える現象である。特定の地域に観光客が集中すればその周辺で暮らす人々を悩ます状態となることは容易に想像がつく。資料Ⅱは観光地周辺の自治体を対象としたアンケートの結果である。二重価格の設定はその解決策の一つとして生まれた。地域外や国外からの観光客から多めにお金を頂こうとすることでその出足を鈍らせて混雑を抑制したり、得られた収益の一部を地域環境の改善に役立てたりすることができる。だから二重価格の設定は観光地にとっては合理的な対応策と言えるのである。

一方で、日本は観光立国を掲げている。観光立国とは国内外の観光客を誘致してその消費を国の経済的な基盤の一つとする施策である。その実現にはファンやリピーターを増やしていかなければならないが、旅行先で観光地の入場料とコンテンツの充実度に落差があったり、入場料の二重価格に対して不公平感を抱いてしまったりするとどうしても印象は悪くなる。そして、ひとたびそんな思いをさせてしまうと当人の再訪が期待できなくなるだけでなく、口コミで日本の観光地全体のイメージが悪化していき、長期的には特に訪日外国人観光客を減らしてしまうことにもつながりかねない。

姫路城の入場料改定についても、約2年前の姫路市長の記者会見で語られていたのは「外国人入場料を30ドル(当時の為替レート注1で約4500円)とし、市民は5ドル(同約750円)程度にしたい」というものであった。しかし、「外国人差別ではないか」「入場時に外国人かどうかを確認するのは難しい」などの声が挙がり、冒頭で述べた形に落ち着いた。紆余曲折注2を経て今回の決定に至ったことが伺える。資料Ⅲは姫路城を含む観光地での二重価格について人々の声をまとめたものであるが、人によって見方や考え方は大きく異なることが分かる。

オーバーツーリズムの解決と観光立国の実現を両立していくには考えるべき課題は多い。国内の他の観光地で二重価格の検討を加速化させる動きも見られるが、経済的な面ばかりを重視した対策を先行させていくと観光立国の本質を見失ってしまうのではないだろうか。

日本には古くから「おもてなし」の精神があった。諸説ある内の一つだが、「表なし」、すなわち表面的な対応ではなく真心を込めて訪問客に接し、相手に満足してもらうことで自分も幸せを感じるという考え方である。これは決して忘れてはならないものであると思う。日本が持続可能な観光先進国となるためのヒントがここにもあるのではないかと。資料を参考にしながら考えて欲しい。

以上

注1. 為替レート：通貨を交換する割合のこと。ここではドルと円の交換を指す。

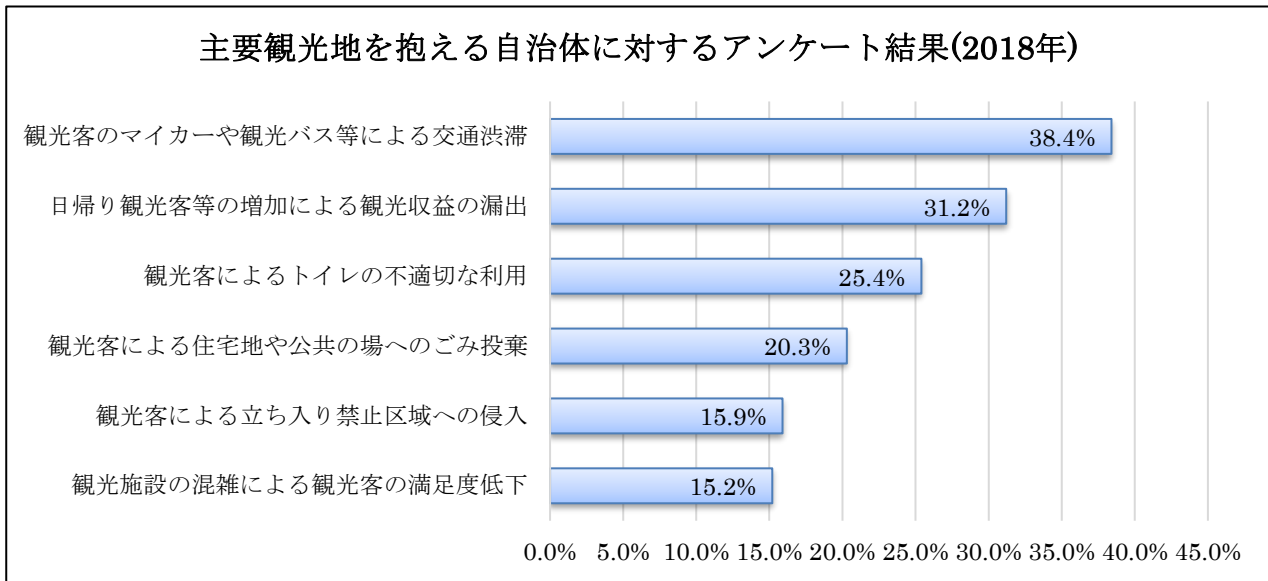
注2. 紆余曲折：物事がうまく進まず変化が生じたりすること。

□資料Ⅰ 入場料で二重価格を設定する主な海外の施設(2024年7月の為替レートで計算)

観光地・施設名	自国民・地域住民の入場料	外国人の入場料
ギザのピラミッド(エジプト)	約 200 円(エジプト国民)	約 1800 円
タージマハル(インド)	約 100 円(インド国民)	約 2100 円
ルーブル美術館(フランス)	無料(26歳未満のEU在住者)	約 3800 円
メトロポリタン美術館(アメリカ)	任意(ニューヨーク州在住者)	約 4800 円

出典：読売新聞オンライン(2024年7月12日)掲載の表より抜粋引用して加工

□資料Ⅱ 観光地周辺自治体が認識している課題



出典：2019年6月観光庁公表資料「持続可能な観光先進国に向けて」より抜粋引用して加工

□資料Ⅲ 姫路城を含む観光地での二重価格に対する人々の声

二重価格肯定派の意見(抜粋)	二重価格否定派の意見(抜粋)
<ul style="list-style-type: none"> ・「市税を納めているのといないとでは違うし『二重価格』も各地で増えているので仕方ない」 (千葉県からの姫路城観光客) ・「姫路城は維持管理にかなり費用がかかっていると思った。日本の美しい国宝を楽しむために多くの金を払ったのだから(問題ない)」 (アメリカからの姫路城観光客) ・「(姫路城の雰囲気は)すごくいい。二重価格はフランスも同じ。ルーブル美術館でも観光客が多く払っている」 (フランスからの姫路城観光客) ・「自身が海外旅行した時に似たような経験をしたので訪日客向けの料金設定がされるのは至って普通」 (20代女性) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「姫路城の大幅値上げが(客足に)どう影響するか心配だ」 (姫路城周辺で喫茶店を運営する女性) ・「(二重価格で)観光客が減り期待するほど文化財を守るための収入が得られず逆効果になる可能性がある」 (観光政策有識者) ・「みんな同じ金額にするべき。誰に対しても…」 (オーストラリアからの姫路城観光客) ・「同じ兵庫県民なのになんで姫路だけって言いたくなる。2500円はちょっと高いと思う」 (神戸市からの姫路城観光客) ・「(二重価格は)日本のおもてなし精神への評価が下がりそうで嫌だ」 (10代女性)

出典：3月下旬の読売新聞・カンテレニュース・FNNプライムオンラインに掲載されていた声を抜粋引用して加工

持続可能な観光先進国となるために

円安も^{あい}相まって日本にはたくさんの外国人観光客が訪れています。それを受けて姫路城だけでなく国内の他の観光地でも二重価格を導入する動きが広がってきています。姫路城の場合には市内居住者かそれ以外かでの二重価格ですが、訪日外国人観光客を対象とした価格の設定を検討しているところも多いようです。オーバーツーリズムの解決と観光立国の実現を両立していくために何をすればいいのかを考えてみてください。

課題文や資料Ⅰ・資料Ⅱ・資料Ⅲに目を通した上で、以下の条件に従って常体語(「～だ」「～である」調)で作文を書いてください。なお、課題作文は以下の手順に従って3日に分けて取り組んでください。また、(3)でテンプレートが示されていますが、それにこだわる必要はありません。(1)と(2)の下線部の条件を守れば自由に書いて構いません。

(1)指定作文用紙に横書き 800 字以内で書くこと。タイトルは不要です。注)今回も横書きです。

(2)以下の順番で目安時間(3 日間合計 3 時間以内)を意識して進めてください。

- ①【初日 20 分程度】課題文と資料Ⅰに目を通し、姫路城の価格設定と資料Ⅰを比べて感じたことや考えたことを 150 字程度で下書きしてください(いきなり原稿用紙に書き始めないようにしましょう)。
- ②【初日 20 分程度】課題文と資料Ⅱに目を通し、オーバーツーリズム対策として最優先で取り組むべきだと考えることを 150～200 字程度で下書きしてください(同上)。
- ③【二日目 30 分程度】課題文と資料Ⅲに目を通し、観光地における二重価格についてあなたの考えや体験談を 300 字程度で下書きしてください(同上)。
- ④【二日目 30 分程度】持続可能な観光先進国を目指すために何を意識してどのような対応を取ればいいのかについてのあなたの意見を 150～200 字程度で下書きしてください (同上)。
- ⑤【三日目 30 分程度】①～④がつながるように接続詞を入れた上で、誤字脱字の訂正、句読点・助詞の点検及び修正などを行って 800 字に収まるようにして下書きしてください。
- ⑥【三日目 20 分程度】⑤で完成したものを最終確認しながら指定原稿用紙に清書してください。

(3)書き方がよく分からないという生徒は以下のテンプレートを参考にして書いてください。

- ① 観光地における二重価格の設定について私は賛成だ (or 反対だ)。姫路城入場料の二重価格について私は～と感じている。資料Ⅰで国外の事例が出ているが、これと見比べてみて私は～であると感じた。なぜなら～だからだ。
- ② その一方で、資料Ⅱにある通り観光地周辺の住民の方は～に対して特に悩んでいることを知って、～のような対策が必要だと考えた。そうすることで～が可能となるのではないか。
- ③ このような対策を実行していくために二重価格を導入することについて、私は冒頭で述べた通り賛成だ (or 反対だ)。資料Ⅲに出ている声の中で特に～という意見に強く共感した。なぜなら～という経験が私にはあるからだ。
- ④ 日本を持続可能な観光先進国にしていくために私は～を提案したい。そうすることで観光客にとっても、観光地周辺で暮らす住民の方にとっても、そして日本全体にとっても共存共栄が図れると確信している。

以上